



1.4区①近世面西半分（南から）



2.4区①K1畝（南から）



3.4区①調査区南壁・東から（北から）



4.4区①5号墳周溝全体（南から）

●主な調査成果

江戸時代では、宝永年間の廃棄土坑や溝が調査区全面から確認されました。1707年の富士山噴火による宝永火山灰を埋めた土坑や溝で、土地再生の為に当時の人々が努力した結果が感じられます。

古墳時代では、周溝1基が発見されました。発掘調査開始前から、石がたくさん集められていた高まりがあったことから、調査区内に古墳が想定されていましたが、周溝が確認されたことで、この石の高まりが古墳であることが明らかになりました。前回の菩提横手遺跡でも、4基の古墳が発見されていますので、一連の古墳と考えられます。石室は調査区外にあり、現状保存されています。

- 調査期間 2020年12月1日～調査中
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、古墳、弥生、縄文、旧石器
- 所在地 秦野市菩提
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北東約4km
秦野盆地北縁の丹沢山地麓

